

## 平成17年3月期 第1四半期財務・業績の概況（連結）

平成16年7月28日

上場会社名 マミヤ・オーピー株式会社

（コード番号：7991 東証第 2部）

（URL <http://www.mamiya-op.co.jp/>）

問合せ先 代表者役職名 代表取締役社長

氏名 松井 嘉正

責任者役職名 常務取締役管理本部長

氏名 志田 太利夫（TEL：(048) - 858 4880）

### 1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有

影響額が僅少な項目につき一部簡便な方法を採用  
しております。

最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無

連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 無

### 2. 平成17年3月期第1四半期財務・業績の概況（平成16年4月1日～平成16年6月30日）

#### (1) 経営成績（連結）の進捗状況

（金額は百万円未満切捨て）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期（当期） 純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
17年3月期第1四半期	3,520	8.8	35		75		159	
16年3月期第1四半期	3,235	34.3	83	84.0	3		77	
(参考) 16年3月期	13,958		305		39		323	

・海外子会社ユナイテッドスポーツテクノロジーズ・L Pは前年度、決算期変更により、平成16年3月期第1四半期の実績には含まれておりません。

	1株当たり四半期 （当期）純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期 （当期）純利益
	円 銭	円 銭
17年3月期第1四半期	4.11	
16年3月期第1四半期	2.00	
(参考) 16年3月期	8.32	

(注)売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示す。

#### [ 経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的情報等 ]

当第1四半期のが国経済は、輸出や設備投資の緩やかな増加等により、生産は増加基調にあり、景気回復の兆候が見え始めてきましたが、一方では、原油価格の高騰、長引く消費の低迷や公共事業の縮小等の不安材料も有り、依然として厳しい状況が続きました。

このような状況下で、当第1四半期の売上高は35億20百万円(前年同期比8.8%増)、経常損失75百万円、四半期純損失1億59百万円となりました。

次に部門別にご報告いたします。

電子機器部門では、ICカード利用の新カードユニットが好評を得ましたが、既存製品の低迷により売上高は20億15百万円(前年同期比12.5%減、計画比31.9%増)となりました。

光学機器部門では、デジタルカメラの伸長で銀塩カメラ市場は一層厳しくなって参りました。そのような中、国内での市場変化に向け、直販体制に切り替え販売強化に努めて参りました。海外市場においては、買換需要を喚起する戦略を展開しています。

欧州はデジタルカメラの影響で低迷し、売上高は5億52百万円(前年同期比22.1%減、計画比10.4%増)となりました。

スポーツ事業部門では、海外国内市場ともゴルフ市場の低迷が続いております。国内では、本年3月に発売いたしました新製品の四軸シャフト「AXIV」が寄与し、売上高は、8億84百万円(前年同期の売上高

は1億10百万円、計画比2.1%減)となりました。

特機事業部門では、新製品搭載したキズ検査装置につきましては、受注に至らず厳しい状況ではありますが、既存製品の遮断桿は好調に推移し、売上高は67百万円(前年同期比39.6%減、計画比50.4%減)となりました。

(2) 財政状態(連結)の変動状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
17年3月期第1四半期	24,658	2,373	9.6	61.08
16年3月期第1四半期	26,336	2,780	10.6	71.51
(参考)16年3月期	24,381	2,533	10.4	65.20

【連結キャッシュ・フローの状況】

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
17年3月期第1四半期	575	106	105	2,623
16年3月期第1四半期	539	38	1,091	4,684
(参考)16年3月期	1,215	57	1,534	3,413

[ 財政状態(連結)の変動状況に関する定性的情報等 ]

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果使用した資金は5億75百万円(前年同期比36百万円増加)となりました。これは減価償却費55百万円、仕入債務の増加4億71百万円等の資金増加要因があったものの、売上債権の増加8億39百万円、たな卸資産の増加2億12百万円等の資金減少要因があったことによるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は1億6百万円(前年同期は38百万円の収入)となりました。これは主に定期積金の預入による支出60百万円、設備投資にかかる固定資産の取得による支出36百万円等があったことによるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は1億5百万円(前年同期比9億86百万円減少)となりました。これは主に短期借入金の返済(純額)95百万円によるものであります。

以上の結果、現金及び現金同等物の当第1四半期末残高は、前連結会計年度末より7億90百万円減少し、26億23百万円となりました。

以上

[ 参 考 ]

平成17年3月期の連結業績予想(平成16年4月1日 ~ 平成17年3月31日)

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
中間期	6,670	320	495
通期	19,065	750	410

(参考)1株当たり予想当期純利益(通期) 10円 55銭

[ 業績予想に関する定性的情報等 ]

第1四半期の売上高・利益とも、計画を上回っておりますが、市場等の不確定要因の当社への影響を考慮して、当第1四半期末におきましては、期初の業績予想を変更しておりません。